

これからの農業・新しい価値観

日本経済新聞夕刊のコラム「春秋」で、町おこしについての面白いフレーズを紹介している。「町おこしに必要なのは若者、バカ者、よそ者だ」。春秋の記者は、バカ者とは「常識にとらわれずに新鮮でとっぴな発想をする人」と読み解いている。一方、若者については「よく動いて活気に満ちた人」としている。私は、若者が町おこしの一環として農業をする場合、若者の価値観を大切にすることが必要だと感じている。本業農家からは「農業を甘く見るな!」とお叱りを受けそうだが、自分の本当にやりたい仕事を大切にしながら「半農半X」あるいは「2/7農5/7X」で農業をやるのもいいのではないかと考えている。

最近、都会で本業以外の兼業に携る人が出てきている。

であれば、農村の現場でもそのようなことがあっていい。重要なことは、「農業」に関わる人の絶対数が、都市部・農村部を問わず増えていくことだ。また、数だけではなく「農業」に対する意識の多様性も大切にしたい。

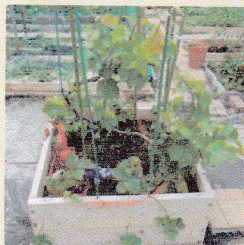
自分が心を込めてつくった農産物で誰かを幸せにすることができたら、自分も幸せになれる。農業は、仕事でも趣味と実益でもいい。農業を従来の価値観ではなく、単純に「農的行為と農産物を通じた関係性の広がり」と考えたらどうだろうか。私自身、実感として感じていることでもある。資源を大切に作る循環的な日本の有機農業は、多くの担い手を待っている。

代表理事 阿部 義通

5月の活動報告

◆ 北千住ルミネ 屋上菜園イチゴ狩り ◆ (保育園児童+保護者)

5月24日(水) 午前10時半から、Jキッズ保育園の子ども達10人と、ほぼ同数の保護者のお父さんお母さんが、一緒にイチゴ狩りとスナップエンドウの収穫をしました。イチゴも、スナップエンドウも、収穫期のピークは2週間から1週間前でしたので、このあたりがイベント開催の難しいところですが、次は6月中旬のジャガイモ掘りです。



収穫後のイチゴ?
収穫中の写真の方が良いのでは?
ズッキーナの木枠の中の
イチゴも収穫

もうすぐ収穫できる
ジャガイモ



◆ 三井住友海上火災保険 共同農場オープン ◆ (スイカ・サツマイモ・エゴマ・モリンガ)

5月に駿河台菜園の2区画を利用して、共同収穫区画を設けました。大きい方の区画では、小玉スイカ4株、サツマイモ23本、ハヤトウリ1株。小さい方の区画では、エゴマとモリンガを栽培します。

今年は2年目。利用者の皆さんもお互いに話をしたり、他の区画を視察したりと、交流が進んでいます。夏と秋の共同農場での収穫はきっと良い思い出になるのではないのでしょうか。



さつまいも



小玉スイカ